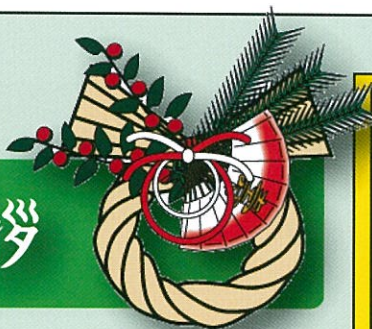


新年のご挨拶



医療法人 大那
理事長 近藤 健

昭和 60 年に大学を卒業して医者になつてから今年ちょうど 30 年になります。早いもので大田原市で開業して 16 年となります。

私の実家は大分県の九州山地の開拓農家で、正直にいますと、私はそもそも医者を小さい頃から目指していたわけでもなく、成り行きで東京の大学に入学し医者になり、リハビリテーション科を専門としましたが、大学卒業の時にリハビリテーションに強い志があったわけでもありません。

平成 10 年にリハビリテーション専門医である妻と外来診療と在宅医療を中心に、古い元診療所を借りて大田原市で開業し、

その後、平成 12 年に介護保険が始まり、通所リハビリテーションなど介護保健事業を始め、平成 15 年に入院リハビリテーションができる有床診療所を開設しここに移転し、平成 24 年には有料老人ホームも開設する成り行きとなりました。というように成り行きで、長期の見通しがあつて、現在に至つたわけではなく、そのときそのときに自分に出来ることをある意味一所懸命にやってきたら現在のような状況になつてしまいました。

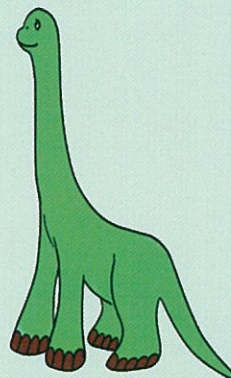
そろそろ人生を振り返ってみることもある歳となつてきましたが、自分の思うようには人生は行かないもので、これからは「成り行き」で、社会にいくらかでも貢献できるように力まず自分のできることをやっていこうとおもいます。

だいな瓦版

医療法人 大那

〒324-0058
栃木県大田原市紫塚 3-2633-10
TEL 0287-47-7721
FAX 0287-20-2815
HP : <http://dyna.gotdns.com>

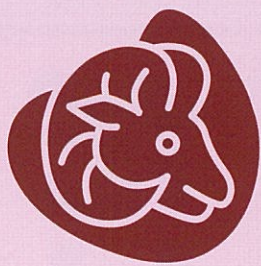
介護スタッフを募集しております。
詳しくはホームページをご覧ください。



だいな君

(だいな瓦版は、医療法人 大那 のホームページからもご覧いただけます)

<http://dyna.gotdns.com/>



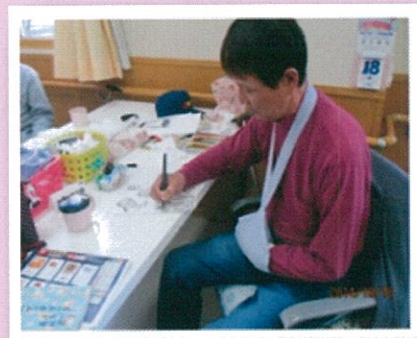
だいな秋冬の催し事

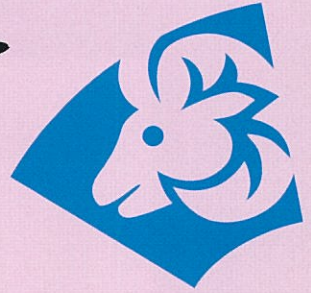


各部署で紅葉狩りに行きました♪
写真は若草デｲｰビスの利用者様です。



皆様の作品と作業風景です
器用な方がたくさんいらっしゃいます♪





紫塚ショートステイではパン作りを行いました!!



紫塚デイケアの利用者様方で作成した
迫力満点の1. 5 × 3 m級の切り絵!!



ハロウィンのおやつ♪

紫塚デイケアで開催された
手品&ハーモニカの演奏



だいなデイケアでは
ソーラン節に
みんなで参加☆三

紫塚デイケアの取り組みが
学会で最優秀賞を受賞

表彰状

『ケアの工夫①「介助アプローチ」部門』

デイケアでのサビズ向上リハビリ実装への取り組み
マンツーマン入浴システムを導入して

医療法人大那だいな紫塚デイケア

三田裕一 殿

あなたは『第十二回日本通所ケア
研究大会』一般演題発表に
おいて優れた発表を行い最優秀
研究発表者と認められました
その榮譽をたたえこれを
表彰いたします

平成二十六年十一月八日

日本通所ケア研究会

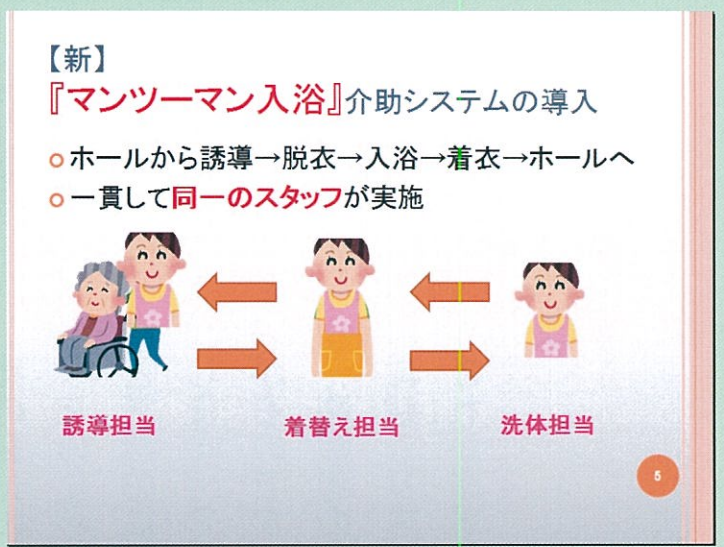
会長 妹尾弘幸



当施設の紫塚デイケアで採用している『マンツーマン入浴システム』に関する論文発表が十一月に広島県で開催された第十二回日本通所ケア研究大会のケアの工夫部門（介助・アプローチ部門）で最優秀賞を獲得しました。

『マンツーマン入浴システム』とは一人の利用者様に対し一人の介助者が責任を持って誘導・着替え・洗体を行うことで様々なメリット（左上図）を創造し、施設の利用満足度を高めるための取り組みです。

この功績に続き、医療法人大那全体が施設の利用者様のために出来ることを日々考え、形にする取り組みを行って参ります。



く受賞者の声く

この度、このように栄誉ある賞を受賞することができ、私も含め、スタッフ一同、驚きとともに大変嬉しく思っております。日ごろ提供しているサービスを見直し、より良いサービスを模索し、実践してきた成果であると考えております。今回の発表では、『マンツーマン入浴』『入浴スケジュール化』『自主トレーニング普及』をテーマに、ご利用者の皆様がりハビリに積極的かつ一生懸命に取り組んでいるご様子も発表させていただきました。皆様の頑張りが、審査員の心に強く響いたに違いありません。発表に際しまして、ご協力いただきましたご利用者の皆様には、この場をお借りして深く感謝申し上げます。今後とも、皆様の心と体の健康をご支援できるように、一層のサービスの向上に努めて参ります。ありがとうございました。

だいな紫塚デイケア理学療法士 三田裕一



なお、今回の研究大会の受賞演題に関しては雑誌『月刊デイ』に掲載される予定です。
大会ホームページ
<http://www.tsuusho.com/meeting/12/>



リハビリ知恵袋 第2回 冷え性とその対策

明けましておめでとうございます。

年明けと供により一層肌寒い季節がやってまいりました。

皆さまの中にもこの季節は「体の冷え」で頭を悩ませる方が少なくないのでは？

今回はそんな皆様のために「冷え症」の簡単な仕組みと効果的な運動をご紹介します。

まず始めに、わたしたち人間が生命活動を維持する上で大切な働きをしている酵素の働きは、37度で最も高まります。そこで、心臓や肝臓など重要な臓器が集まる体の中心部の温度をつねに37度に保つために、環境の変化に応じて体温を調節するわけです。

そのため気温が低いときは、四肢末端や皮膚表面の血管を細くすることで熱の拡散を防ぎ、体の中心部に血液を集めて、体温を維持しようとなります。そのため血液が行き渡りにくくなった手先や足先は、温度が下がるのです。

高齢者の場合は筋力の低下や動脈の硬化により四肢の体温低下は顕著に起こります。

これが簡単な「冷え」のメカニズムです。



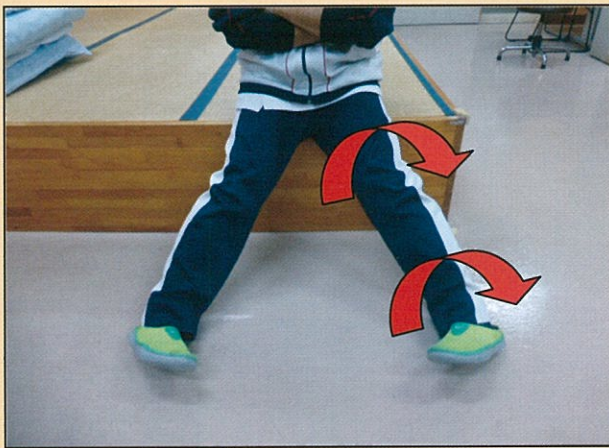


この『冷え』の仕組みをふまえると運動のポイントは四肢末端の血液循環を良くし、体の中心部の温かい血液を送ってあげることが重要となります。

運動 1

椅子に腰かけた状態で深呼吸をしながら足全体を内側外側交互にひねります。(20~30回程度行う)

この際足首だけではなく股関節から大きく動かすことで骨盤帯が動き、体の中心部の温かい血液が足に送られやすくなります。



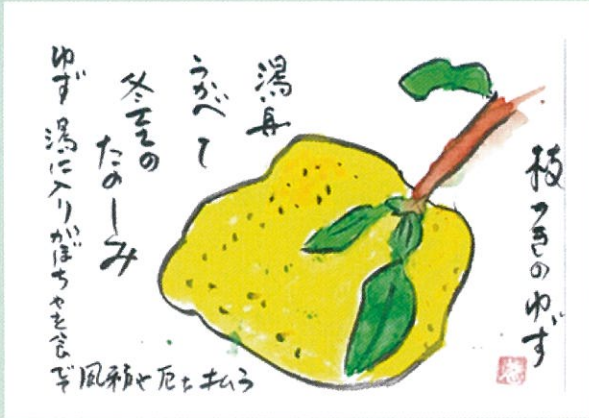
運動 2

仰向けで左図のように片足のふくらはぎをもう一方の足の膝上に置きます。その状態で脛をなるべく動かさずに足首をぐるぐると大きく回すことで末端の血液循環を改善します。(20~30回程度行う)



仰向けをとるのが難しい方は座った姿勢で左図のようにかかと上げを行なっていただいても結構です。



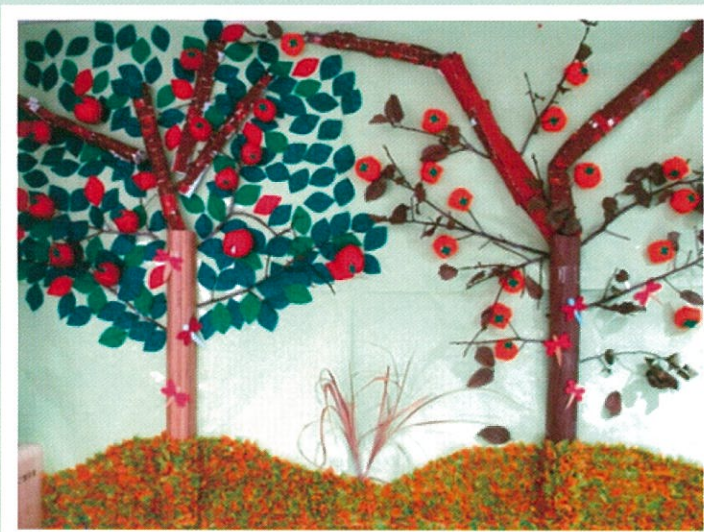
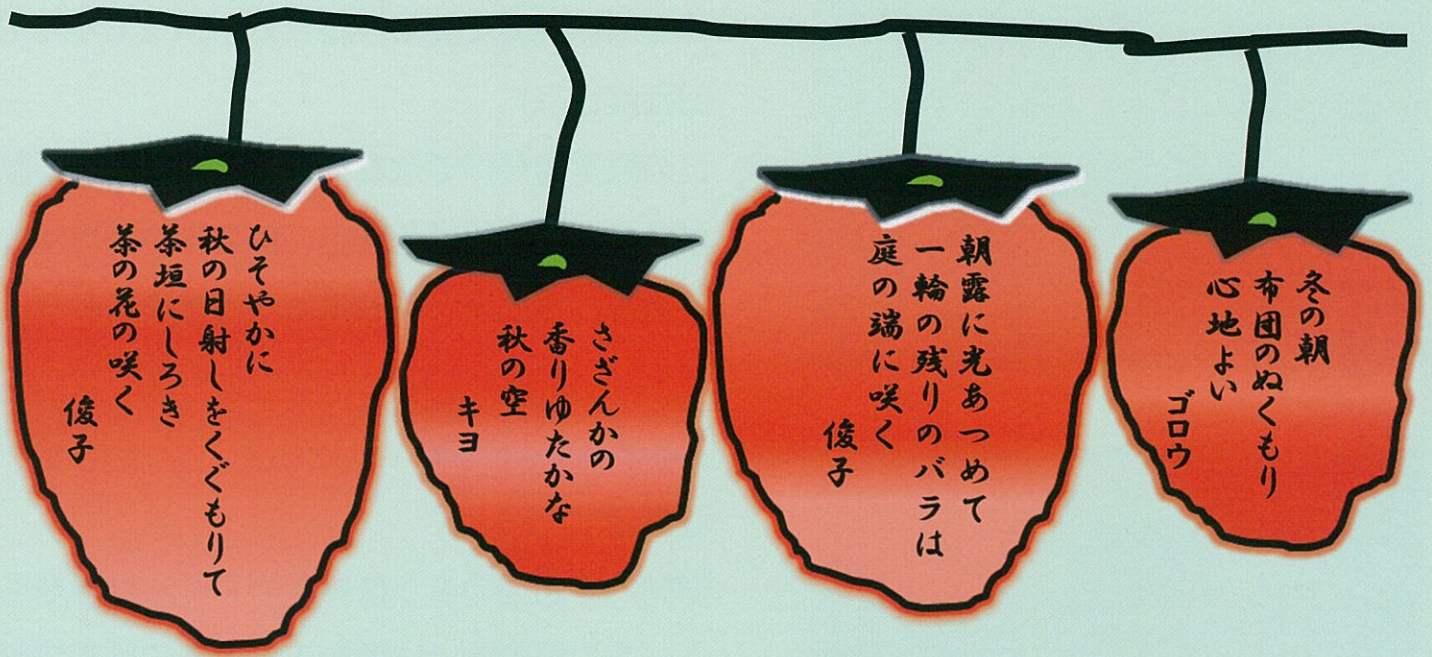


作：紫塚デイケア利用者様

俳句
短歌
柳



秋・冬編



作：紫塚ショートステイ



作：紫塚デイケア利用者様